

平成27年度特別養護老人ホーム「千寿の園」事業報告書

- 理念 I 利用者・家族・職員の誰もが安心して生活できる「場」であること
II 自分の家族、自分が入居してもいいなと思えるケアを創ること
サブテーマ＝美しい所作(言葉遣い・態度・仕草など)でのコミュニケーションの実行
上記の理念に基づいて、事業を展開してきた。以下、報告とする。

第1 概況

1 介護報酬改定

平成27年度介護報酬改定は、介護報酬平均で2.27%とされ、一部報道によると「特養狙い撃ち」とされた特別養護老人ホームは5%と超える削減と言われてきたが、実際1年間を通してみると入居部分で5.95%の減額となった(約1,370万円)。居住費が320円から350円、更に8月には840円と改訂され、居住費910万円余の収入増を差し引いても460万円の収入減額となった。

2 制度改正－入居要件変更と利用者負担額の増

特別養護老人ホームへの入居要件が要介護度3以上に限定され、要介護度1・2は市町の意見を必要要件とする「特例入所」の対象となった。千寿の園は3件につき2件が非該当という意見が表明された。

26年度までの行政が生活保護、独居等の理由により介護度関係なく入居を要請してきた状況と逆転現象が生じている。

また、利用者負担額が変更になり、多床室の居住費が320円→840円・所得等による負担額の増(収入要件年280万円等による2割負担)・補足的給付(資産要件1,000円以上)の縮小化等により、多床室であっても月負担額が10万円を超える利用者が出現している。

3 利用率(稼働率)

平成27年度の退去者は死亡22人・他病院への転院は3人で計25人が退去した。

制度改正及び在宅ケア志向への国の政策誘導もあり、中東遠地区の各施設は入居利用者確保困難になってきており、千寿の園においても、入居、短期とも利用率が低下をしている。4月に利用促進会議を立ち上げ、電話による申込み待機者の調査を実施したが有効な入居に繋がっていない。(※退去から入居までの日数 23年度7.46日・24年度7.0日・25年度10.5日・26年度12.8日・27年度16.2日)

インフルエンザは3月14日B型が発生(終息3月28日)し利用者6人、職員1名が感染し、短期利用・面会等を停止し、短期利用については延べ56人約65万円の減収となった。

4 修繕・改修工事及び対費用効果について

修繕費は例年、多額な金額を要しており、27年度当初予算 310 万円から第一次補正予算 500 万円、第 2 次補正予算 700 万円に増額補正し、実際は 6,442,050 円で終了した。件数は 49 件で比較的大きなものは、5 件（合併浄化槽 972,000・2 階空調設備 710,000・揚水ポンプ取替 810,000・本館空調設備 324,000）2,816,000 円となった。

5 介護力向上（質のレベルアップ）への取り組み

27 年度も全国老人福祉協議会第 13 回介護力向上講習（岐阜会場）に 1 名を 6 回講座として参加させ、実践を一層進めた。

テープ式オムツの利用者が皆無となり、3 月末で 68 人中 64 人（94.1%）をトイレに誘導し「トイレ排泄」に取り組んでいる。千寿の園は洋式便器が 10 個しかなく、定員 80 人に対し 8 人に 1 つの割合でのトイレしかなく、トイレの前で順番待ちの光景も見られる。取り組みとして排泄リズムを把握することでトイレ誘導を可能にしている。

これらの取り組みは 8 月の県高齢者福祉施設研究大会において実践報告し、介護力向上講習岐阜会場講師からも適切な実践と評価された。

6 市内 4 施設共同の取り組みと社会貢献活動

28 年 1 月 24 日、4 施設（千寿の園・喜久の園・松寿園・松秀園）共同で「とくようフェア」を開催し、ピアニスト辻井伸行氏の母辻井いつ子氏の講演を行い 143 名の参加、8 件の相談受付を得ることが出来た。

フェアは制度改正に併せ「介護保険改正と特別養護老人ホームの紹介」を目的とし、行政・居宅介護支援事業所等による介護相談などを行い、同時に講師から障害にもまけない親子の生き方の講演があり好評を博した。

スタッフとして 4 施設のみならず行政、地域包括支援センター・居宅介護支援専門員協議会等の協力が得ることができたのは、市内初めての特別養護老人ホーム発のイベントとして成功であったと評価している。

引き続いての地域貢献（連携）事業としては、地域ケア会議・地域ケア実務検討会の構成メンバー・菊川市立総合病院の事業評価委員、中東遠圏域認知症医療連携協議会委員、菊川市立総合病院及び市内社会福祉施設等連絡協議会の中心施設としても貢献してきている。26 年度に発足した「菊川市地域医療を守る会」にも役員として参画している。

第 2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成 27 年度の利用率は、表-1・表-2 のとおりである。入院希望の強い家族もおりニーズの多様が見られ、特別養護老人ホームの役割を一層、強く説明して理解を得るよう努めていく必要がある。

表－１ 入居者利用（稼働）状況表

年度	入居利用率	短期利用率	退去者数	入院日数
平成 25 年度	98.6%	81.6%	19 人	156 日
平成 26 年度	97.4%	72.7%	37 人	221 日
平成 27 年度	97.6%	68.8%	25 人	143 日

※入院日数は利用率には含まない

表－２ 90歳以上の入退去者状況 単位：人（入退去数における割合）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
退去者数	8 (42.1%)	19 (51.4%)	9 (36%)
入居者数	3 (15.8%)	10 (30.3%)	8 (30.8%)

2 経営状況

平成 27 年度の収入は、313,033 千円で、主な内訳は、介護保険収入 308,245 千円、その他収入 3,196 千円、償還金補助金 1,592 千円である。

一方、支出は、326,352 千円で、主な内訳は、人件費 230,958 千円、事業・事務費等 88,872 千円、施設整備・借入金償還等 6,954 千円であった。

また、借入金の償還は、福祉医療機構へ元金 5,000 千円、利息 455 千円、元利償還金合計 5,455 千円である。

<収入>

(単位 千円)

区分	27年度	26年度	増減
介護保険	308,245	314,928	△6,683
その他	3,196	2,773	423
補助金等	1,592	1,394	198
計	313,033	319,095	△6,062

<支出>

区分	27年度	26年度	増減
人件費	230,958	225,316	5,642
事務、事業費等	88,872	92,148	△3,276
施設整備・償還金等	6,954	8,888	△1,934
計	326,384	326,352	432

3 職員状況（部門別職員数）

平成 27 年度末の常勤職員は 38 名で、内訳は介護職員 24 名、看護職員 5 名、管理栄養士 1 名、事務室職員 8 名である。また、非常勤職員は、嘱託職員・派遣職員・医師を含め 22 名で全体の職員数は 60 名である。

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(単位 人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長 副施設長 介護部長	相談員・主任・事務・居宅・管理	送迎担当 清掃員・洗濯員	主任 副主任 一般	看護師・嘱託 医師	管理栄養士	
正規	3	5	—	24	5	1	38
非正規	—	2	9	8	3	—	22
計	3	7	9	32	8	1	60
26 年同期	2	7 (2)	6 (6)	37 (12)	10(6)	1	63

注) 1 () は、非正規職員

注) 2 育休中が 1 人 (介護職員)

年度途中退職が正非職員合計 4 人、途中採用は 5 人である。産休育休入りが 1 人、復 1 人であった。人材確保は引き続き困難であり、介護系専門校卒が 1 名あったが、その他は未経験、無資格の者の採用となり、新規採用職員の研修、養成が大きな課題になっている。

4 施設整備等の状況

以下のとおりである。 修繕費総額 6,442,500 円 ・ 新規・更新購入した主なもの

主要設備改修	金額	備品更新・購入	金額
合併浄化槽工事	972,000 円	新館 3 階食堂 TV1 台	277,020 円
本館空調設備修繕	324,000 円	ベッド中古 4 台一式	501,552 円
揚水ポンプ取替	810,000 円	車椅子 12 台一式	532,880 円
新館 2 階空調修繕	710,000 円	軽自動車 1 台 (助成有)	663,236 円
その他修繕工事	3,626,050 円	パソコン等 OA 機器	502,200 円

5 特記事項

(1) 家族・利用者の声に耳を傾け寄り添う活動

① 家族懇談会 6/6 (土) 開催一参加 35 家族 (37 名)

介護保険制度改正について説明を行い、利用者負担増について同意取得を得た。永眠に至る心身の特徴を説明し施設看取りの理解を得るよう努めた。全体説明後、グループ懇談 (2 F 15 家族 16 人・3 F 20 家族 21 人) を行い、清掃や面会場所の要望が意見として出され、同時に利用者が入居して明るくなった、トイレ臭がしなくなった、歩きたいという気持ちが出てきたようだ等の意見が出された。

② 入居者懇談会 3 月 2 日 (水) 2 階 10 名

出された要望として、入浴時の同性介助、同室入居者への苦情等が出され、職員の対応は、声を掛けやすいが忙しそうにしているとかけづらいとの声が寄せられた。3

階利用者についてはインフルエンザ感染のため翌年度に延期となった。

(2) 施設行事

- ① 夏祭り（旧納涼祭）－7月18日（土） 利用者家族25世帯39人・来賓11人・ボランティア11人、計61人参加。職員の寸劇等で楽しむことが出来た。
- ② 敬老祝賀会－9月12日（土） 利用者家族26世帯家族33人・来賓13名参加。ボランティアサークル「たのしみ会」による日舞、銭太鼓を楽しみ、自分で選んで食べる寿司ライブでの「**選択の楽しみ方**」を今年度も実現できた。
- ③ 新年祝賀会－1月3日（日） 手作りした千寿神社に初詣をし、昔の正月遊びを楽しみ、お屠蘇を味わうことが出来た。

第3 部門別の状況

1 管理・事務部門

(1) 全体運営（マネジメント）について

基本方針として「PDCA（計画→実践→チェック→処置*再チャレンジ）」を徹底し、各部署においてもPDCAに基づく計画、総括方法を取ることができた。

年間を通じ、①理念に基づいた実践、②介護力の向上、③リスク管理と予防マネジメント、④利用者・家族の声の聴取と寄り添い、⑤地域と共同での防災対策、⑥在宅サービスの充実、⑦社会的貢献事業の展開、⑧均衡のとれた収支バランスを基本に運営出来た。

(2) 事務、経理等について

ア 介護保険の加算請求のミスを防ぐため、他職種との連携を図り情報を共有することができた。また、請求の二重チェック（読み合わせ）を行うことで、請求間違いのない事務を遂行することができた。

イ 物品購入時に見積り合わせを行い、また、光熱水費削減に向けて使用量のデータを都度職員に提示し節約に向けた意識変革を図った。

ウ 新会計基準への移行に伴い法人内経理事務打合せ会議に参加し、法人内の事務の統一化を図ることに努めた。

エ 顧問会計士・社会保険労務士等との連携を密にし、コンプライアンスとモラルを順守し規程を熟知し正確かつ迅速な事務処理を心掛けた。

(3) 諸会議開催状況

① 職員全体会 3回

ア 第1回－6月5日（金） ・27年度介護報酬改定説明・26年度事業報告・27年度事業計画、各グループ、委員会方針を論議した。

イ 第2回－10月23日（金） ・マイナンバー制度の説明・「よそおい」報告・リスクマネジメント委員会（安全確保）・看取り方針・感染対策を学習した。

ウ 第3回－4月14日（木） 28年度法人、施設事業計画の説明及び各グループ、部署方針説明発表 ※28年3月25日をインフルエンザのため延期

② 管理運営会議 12回

(4/24、5/29、6/22、7/24、8/24、9/25、10/23、11/26、12/21、1/25、2/22、3/24)

③ 専門会議 (委員会)

ア 介護部主任・副主任会議 12回

(4/24、5/29、6/22、7/24、8/24、9/25、10/23、11/26、12/21、1/25、2/22、3/24)

イ トライアングル会議

2階フロア12回

(4/24、5/29、6/22、7/24、8/24、9/25、10/23、11/26、12/21、1/25、2/22、3/24)

3階フロア11回

(5/29、6/22、6/23、6/24、7/24、11/9、11/26、12/5、12/21、1/25、2/5)

※トライアングル会議＝フロア別主任副主任会議

ウ 介護部フロア会議 2階フロア 5回 (4/24、6/21、12/14、12/15、3/22)

3階フロア 4回 (7/24、11/11、12/7、12/8)

エ 医務室会議 6回 (4/27、6/30、8/27、10/29、12/22、2/29 各参加人数は6人)

オ 介護力向上委員会 12回

(4/24-7、5/29-7、6/22-8、7/24-7、8/24-10、9/25-10、10/23-8、11/26-10、12/21-10、
1/25-8、2/22-9、3/24-10 *一線以下は参加人数)

(4) 研修活動

◇OJT (職場内研修)

① 副主任業務者研修 9/25 4名 3/7 4名

② 感染症学習会 10/23 42名

③ ワンポイントレッスン (ノロウイルス対応シミュレーション)

12/21-24名、1/27-25名

◇OFF-JT (職場外研修)

① 平成27年度全国老協介護力向上講習会岐阜分校

第1回 5/25 2名、第2回 7/21 1名、第3回 9/24 1名、第4回 11/25 2名、
第5回 1/26 1名、第6回 3/22 1名

② 法人研修 11/20 2名、12/21 3名、1/26 2名 計7名

③ その他の職場外研修・出張

ア 公的出張 (県老協総会等) 5回 5名

イ 中東遠地区職種別研究会 9回 9名

ウ 高齢者福祉大会「発表」等他の職場外研修 12回 13名

エ 喀痰吸引等研修(50h) 9日間 対象1名

◇SDS (自己啓発活動への援助)

ア 認知症研修 6月・11月 2回-10名

2 介護部門

(1) 実践

- ① 千寿の園理念に基づいて主任、副主任でどんなケアや対応が理念の実現につながるのかを具体的に表し、アンケートで振り返りを実施し集計結果を基に思いや意識の共有、統一を行った。
- ② 業務レイアウトを作成し、毎月の主任・副主任会議でリーダー制の検討を行いリーダー意識や業務の改善を図った。ケア検討として他部署や第三者（居室担当者以外）からの評価を行う事で広い視野で入居者の事を考えるようになり、多方面からケア検討を行えるようになった。
- ③ 年 4 回の家族への手紙、随時の事故報告、面会時の対応、グリーンケアの手紙（21 名・家族からの返信 2 名）を継続しており、家族と職員との顔なじみの関係もでき定期的な面会に繋がっている。終末期には医務室と連携し積極的に家族のケア参加を促し、最期の時を「家族との時間」として過ごせるよう働きかけ（家族付き添い 5 名）、「最高の看取りをさせて頂きました」と感謝の言葉もあった。
- ④ 介護力向上については、テープ式のオムツの着用者は 0 になり（テープ式オムツ 26 年度：40 箱→27 年度 13 箱）、新入居者に対しても、トイレ誘導へのアプローチを行ってきている。また、新規採用職員に対して「おむつ外し」についての講習会を実施し（7 月 31 日・対象職員 5 名）、意思の統一を図った。

◇反省・課題

- ア 入居者に対する思いを業務の中にどう取り入れることが出来るかが課題と思われる。業務に対して柔軟な発想や転換がなかなかできない。「～したい」が「～できる」に変換できる見解等、広い視野で入居者と関わりがもてるようにしていく。
- イ リーダー制を実施したが、個人差もあり、リーダー業務を明確化しつつ、各個がリーダーとしての状況把握、判断、指示等ができる体制・養成を行っていくことが課題である。
- ウ おむつ外しに対する意識は高いので、次に繋がる取り組みの展開が必要と思われる。トイレに座ること、水分を 1,500ml 摂取することが最終目標ではなく、次の実践として個別のケアを見出す努力をしていく。

(2) ショートステイ

- ① ショートステイ利用者状況表を作成し、基本情報や注意事項等を確認できるよう一覧表にまとめ掲示しケアの統一を図った。
- ② 事故防止のために毎食事に配薬者に責任を持たせるよう、配薬者のサインをするようにした。
- ③ 利用中の楽しみについては、丁度利用がイベント開催日であったり、日曜日の利用であったら楽しんでもらえることも出来たかと思うが、日常的にはなかなか楽しい時間を提供できなかった。

(3) 各グループ総括

◎2階「輝きグループ」

食事時には最低コップ 1 杯の水分を飲めるようにするという目標を立て、特に冬場は冷たい飲み物ではなく暖かい飲み物を増やし水分摂取量を増やした。

排泄用具については、入居の際テープ式紙オムツを使用しているも、入居初日からリハビリパンツに変更し対応することができており、意識が高まっている。

◎2階「大空グループ」

おむつ外しの取り組みについては、布パンツへの移行が 14 名中 8 名を達成。水分摂取については明確なデータ評価ができておらず、提供時のケアを統一ができていなかったという課題が残った。

◎3階「愛グループ」

服薬ミスを無くすという目標を立て、朝のミーティング時に声に出し確認することで投薬忘れ・誤薬は減少したが口に入れた薬剤が床の上に落ちていたり、服薬介助者が不明確であったりと反省があった。

利用者のプライバシーに配慮して居室、トイレの扉を閉めることや職員同士で情報を確認する時は小声で話す等、プライバシーに配慮する様に努めた。

「笑顔の引き出し実践」についてはベランダで楽しみながら野菜を作ったり花を育てたりした。夏はトマト・きゅうり等野菜を収穫し利用者の笑顔がたくさんみられていたが、取り組み回数が少なかった。今後は 1 年通し利用者が楽しめる事を計画していきたい。

◎3階「若さグループ」

「ホーレンソウ」(報告・連絡・相談)を確実にする＝個々がパソコンや‘何でもノート’、メモ書きによる情報伝達・共有を意識し業務してきた。交代勤務でありという中で情報伝達の困難さを克服することに努めてきた。その結果、ショート利用者の事故・忘れ物は減少出来てきている。

楽しみのある生活に関しては、生活歴・家族からの情報を基にベランダ菜園や将棋を行った。散歩や買い物外出、毎週のレクリエーション、フロア行事を通して楽しい時間を共有できた。

3 相談員部門

(1) 入居利用(稼働)率の維持(目標値-99.5% 実績-97.6%)

① ベッド利用率の維持

27年度は70床中25名(死亡22名 医療機関等への退去3名)が退去となった。利用率について、介護保険制度改正や周辺地域の高齢者施設の整備、在宅介護意識の向上の影響もあり、入居希望者・対象者は大幅に減少し入居に至らない時期があり利用率の低下に繋がった。

入居後は家族や関係各所と密な連絡体制を心掛けていたため、「千寿の園へ入居出来て

本当に良かった」との声も多く聞かれた。

② 特例入所

介護保険制度改正による影響として、特例入所制度の導入で、従来生活困難ケース等行政からの相談・依頼にて対応してきたことが、施設側から行政に伺いを立て入居に繋げるという逆転現象のケースも発生してきている。

(2) 入居者・家族等の関係性・かかわり

① 利用者・家族の声を傾聴する活動として家族懇談会を開催（6/6）したが、利用者懇談会はインフルエンザ感染により、2階利用者、1回のみで開催となった。

(3) ボランティア受入についての継続

① 小中学生ボランティア…7/18 夏祭り 6名 11/15 運動会 10名 12/20 クリスマス会 9名の参加があり、夏祭りには5名の専門学校生の参加を得た。

定期ボランティア（書道クラブ・カラオケ指導・傾聴・民生委員等）は、意見交換会開催だけでなく日常の関わりの中で活動環境の充実を図れるよう連携を取る必要があると思われた。

(4) 入居受付の動向と対応

27年度、入居申込者数が大幅に減少した。要因として周辺事業所のサービスの拡充により利用者の選択肢が増えたことや「要介護度が低いと特養には入れない」というイメージの先行があり、申し込みまでに至らないといった部分が強いと思われ居宅介護支援専門員等への周知・広報活動が一層、重要である。

(5) 社会的経済的機能の脆弱性のある利用者への対応（地域への貢献性）

27年度は、市担当課の依頼を受け生活保護ケースを特例入所として入居に繋げることができた。また居宅介護支援専門員や病院医療ケースワーカー・他施設相談員等からの困難ケースの相談に対して積極的な受け入れを実施することができた。

4 医務室（看護）部門

ア 医療的知識・技術の向上のためのスキルチェック指導を6月～7月と10～11月の2回に渡り実施した（医療的ケア推進委員会）。

新規採用CW職員4名に対しても研修指導を2回実施している（2月8日・26日）。

イ 感染症学習会として10月全体会で職員全員を対象にワンポイントレッスンをを行い、ノロウィルスの実施研修を行った（感染症対策委員会）。

ウ 看取り介護学習を7月27日に施設長・相談員・介護主任3名・医務室員6名で行った。また、10月の職員全体会で看取りのパワーポイント学習をおこなった。（看取り委員会）

エ 褥瘡予防対策としてリスクの点数化・皮膚観察等を学習し、利用者にあった個々のクッション等について検討・導入し重症化を防いでいる。（褥瘡予防対策委員会）

オ 病院での死亡は1名・療養型転院は3名であり、看取り介護加算は、嘱託医師の確認指示を受け看護師説明後、家族同意を得て取得している。22名の死亡の内19名の

加算を取得できた。

- カ 看護師による入居面接は 3 人（室長・主任・副主任）の交代で対応可能になり、家族や相談員の都合を優先できる形がとれてきている。
- キ 看護師の自己学習について、6 月に 2 名・11 月は 3 名で認知症の講演に参加し 1 月 31 日の菊川市在宅医療についての講演会に 2 名が自主的に参加した。また、2 月 29 日に訪問薬剤師を講師に学習会を行い、医療知識の研鑽に努めた。
- ク 家族との関係では、ほとんどの家族が施設での自然な看取りを希望し、施設看取りを行ってきているが、家族によっては病院医療志向もあり、十分な理解がされなかった場合もあった。
- ケ 定期健康診断を 4 月・11 月に実施、定例衛生委員会を毎月 1 回開催した。
- コ 感染症について、インフルエンザが 3 月 14 日に発症し 27 日に終息するまで利用者 6 名・職員 1 名の 7 名が感染しショート利用者の受入停止、家族の面会の中止な等の影響が出ており、感染症対策の難しさ、特に多床室での困難性があった。

5 給食部門

① 食生活の充実

25 年度より実施している「フロアでの食事の盛付」を 22 回行った。車椅子食事ではなく、椅子に座り足を床に付け食事する取り組みを引き続き実施している。高さの調節も既存のものを利用しながら努力している。給食委託業者の業務内容見直しについては、年度末に各部署代表職員等にチェックシートの配布を行いチェックしている。

② 食事の楽しみを増やす

毎月 1 回、旬の材料を献立に取り入れたイベントを行い、昨年度は 27 年度の新たな試みとして、利用者の誕生日に利用者のリクエストを聴取し希望の応じた新メニューを多く取り入れ、当日は誕生日カードを送り、利用者の希望に沿える食事の提供に努めた。

【イベント食】 4/16 餅つき、5/3 手作り柏餅と新茶を楽しむ会、6/18 鮎の炭火焼き、7/18 夏祭り（選択食・お好み焼き・ソフトクリーム・駄菓子等）、8/27 流しそうめん、9/12 敬老祝賀会（握り寿司ライブ・紅饅頭）、10/29 さんまの炭火焼、11/17 焼き芋、12/25 クリスマス（スイーツバイキング）、2/17 お好み焼き・甘酒パーティー、3/16 駄菓子屋さん【新メニュー】 5/17 焼肉、7/14 天丼、8/4 冷やしきつねうどん、8/25 コーン入り夏野菜カレー、9/16 ス克蘭ブルエッグ、9/29 カツカレー、10/21 ふかし芋、10/22 カレーうどん、11/24 かき揚げうどん、12/1 長芋と豚肉と味噌煮、12/25 スイートポテト、12/25 バナナの蒸しパン、1/12 かつ丼、3/24 かき玉うどん

③ 体調に合わせた食事の提供

利用者の体調に合わせて食事形態の変更を関係職員と共に連携し速やかな対応を心がけた。同時に回復後は早期に元の形態へ戻せるように取り組んだ。

④ 常食化への取り組み

介護看護職員と共に徐々に食事形態を上げ、常食に近づけるような努力を行った。

⑤ 栄養ケア・マネジメント実務の充実

入居後、速やかに情報収集を行い、栄養ケア計画作成を行った。また、利用者の状況をみて栄養ケア評価を行い、栄養補助食品を補給などを行った。

⑥ 衛生管理の徹底

委託業者と共に厨房内の衛生管理に努め、食中毒の予防に努めると共に10月の職員全体会議においては「感染症について」を学習し、ワンポイントレッスンで「ノロウイルス対応のシミュレーション（感染症対策委員会）」を行い感染症予防に努めた。

6 各委員会活動報告

(1) リスクマネジメント委員会（事故防止・苦情解決・身体拘束廃止・褥瘡対策・個人情報）>全12回（4/24・5/29・6/22・7/24・8/24・9/25・10/23・11/26・12/21・1/25・2/22・3/24）職員全体会議(10/23)で状況報告（誤薬・食事中の位置取り・視線・半期の事故傾向と対策）・法人苦情解決第三者定期ヒアリング開催(9/15)

〈苦情解決委員会〉

今年度の苦情申し出は4件であった。内容はケアについてであり、毎月の委員会で詳細な報告検討を行い、情報の共有化を行う中でいリスク管理(予防)に努力した。

〈個人情報保護委員会〉

個人情報チェックシートを全職員対象に実施し集計結果をまとめて公表した。利用者の名前の記載がある用紙をメモ用紙として使用するなど個人情報の取り扱いに不十分さがあった。

〈身体拘束廃止・虐待防止委員会〉

職員対象に擬似体験(水分摂取/スピーチロック/行動抑制)を行い、利用者の立場になることで身体拘束、虐待防止への意識づけを行った。車椅子使用者の状況を確認し“座る為の椅子”の使用を促した。

〈事故防止委員会〉

ヒヤリハットを分析し事故防止に努めた(毎月、報告されたヒヤリハットを見直し同一利用者のも、事故に繋がるリスクが高いもの等気になるヒヤリハットを取り上げ再検討した)。ヒヤリハット閲覧ファイルを作成し各自の再確認による周知、徹底を促した。

〈褥瘡対策委員会〉

学習会を2回開催(2F:6/22参加者7名。3F:7/24参加者9名)した。OHスケール(床ずれ発生予測評価法)を利用者全員に行うと共に各フロアに褥瘡専用連絡ノート(iPadで褥瘡部位を撮影し添付も行った)を用意し情報の提示・共有・ケアの統一を図った。

(2) 感染症・食中毒対策委員会

8回開催（7/8・8/17・9/11・10/20・11/17・12/17・1/29・2/22）

ア 出勤前検温を10/26から開始した。インフルエンザ予防接種については薬剤の遅延により、10月28日：職員・2F入居者 11月11日・3F入居者 11月25日に実施した。

イ 2 回のワンポイントレッスンをを行いノロ対応のシミュレーションを実施した(12/21-24 名・1/27-25 名)。

ウ 感染症学習会(インフルエンザ・ノロウイルス)を職員全体会にて行った(10月23日42名)。

(3) 看取り介護委員会

12 回開催

(4/27・5/26・6/30・7/28・8/27・9/29・10/29・11/30・12/22・1/18・2/29・3/10)
27 年度 22 人の永眠があり、19 名の方の看取り加算を取得した。職員全体会(10/23)において「看取りの方針について」を発表した。

(4) 医療的ケア対策推進委員会

12 回開催

(4/27・5/26・6/30・7/28・8/27・9/29・10/29・11/30・12/22・1/18・2/29・3/10)
ア スキルチェック 2 回実施した(6/8~7/31・10/15~11/26)
イ 吸引吸痰 50 時間研修を他施設(おおすか苑)実習を含め終了した。対象 1 名。

(5) 衛生委員会

12 回開催

(4/27・5/26・6/30・7/28・8/27・9/29・10/29・11/30・12/22・1/18・2/29・3/10)
ア 4 月と 11 月の定期健康診断・腰痛検査表をもとに委員会を開催し、産業医より指示を受け D 判定者のピックアップと共に必要時受診を勧めた。
イ 27 年度よりソルボらくらく腰痛ベルトの貸与を導入し腰痛ベルトの正しい装着を指導した

(6) 食生活改善委員会

★業者を含めた会議 4/16 管理運営会議内 12 回 計 13 回

(4/24、5/29、6/22、7/24、8/24、9/25、10/23、11/26、12/21、1/25、2/22、3/24)

香りを食に生かす実践は 3 年目を迎え、利用者に喜ばれ浸透されてきた。また 27 年度の新たな取り組みとして、利用者の誕生日に希望を聞いて献立に取り入れた。当日は誕生日カードと共に利用者の希望に応える食事の提供を行った。メニューは、利用者のリクエストを献立に取り入れる事により、新メニューが導入され新鮮さが生まれた。環境面での取り組みとして、足を床に付けて食べることが出来るよう椅子食事においてテーブルと椅子との高さ調節、テレビの音量調整にも配慮した。

(7) 広報委員会

12 回開催

(4/13、5/14、6/18、7/8、8/7、9/10、10/13、11/10、12/9、1/11、2/9、3/11)

ア 平成 27 年度広報紙を 3 回発行した。

イ 毎月 1 度、委員会を時間内に行い、各フロア 1 名の委員の参加としたことで、職員の負担軽減に繋がったが、作成そのものの時間がなく作成方法としての課題は依然生じている。

(8) 防災委員会

- ア 定期防災訓練 9 回実施 (4/21・5/25・7/27・8/21・9/28・10/29・1/21・2/26・3/23)
- イ 他にコミュニティー夜間非常呼出し訓練(7/7)、本通り下自治会自主防災組織との打ち合わせ(11/10)を経た自治会共同体験訓練(12/6)、AED取扱い及び救助避難袋体験(12/6)、消防署立ち入り検査(12/17)、停電による自家発電等機器取扱い訓練(2/15・2/26)を実施した。
- ウ 課題として例年消防署からの指摘である夜間避難誘導訓練ができなかった。また、今後は自治会共同訓練への施設からの参加等を検討する必要がある。

(9) 法人苦情解決委員会 1 回開催(9/15) 堀尾孝・朝比奈りう子第三者委員出席

- 苦情 11 件 (千寿の園 26 年度 9 件・27 年度 2 件)・1 件 (居宅支援事業所 26 年度 1 件) 計 12 件を報告。 ※26 年度の件数は委員会後の報告数である。
- 第三者立会苦情 1 件、重大な苦情はその都度、文書、電話、面談で報告を行ってきている。

第 4 短期入所生活介護事業所

- 1 年間を通し新たな契約件数は 36 件。利用終了件数は 24 件でその内 6 件が千寿の園入居、他施設入居が 9 件、利用終了が 4 件、残り 5 件は永眠者であった。
- 2 利用率は女性利用者を中心に、少ない男性利用者の穴を埋めるよう努めたが、利用率目標 85%に対し 68.8%で止まった。
- 3 週末利用希望の意向に沿えるよう利用調整を図った。
- 4 ショート利用から施設入居する上で、疾病等発症の予防を含め情報を各事業所との共有化を図った。
- 5 本人・家族からの苦情発生に対して都度、担当ケアマネジャーに報告し、早期の解決を図った。
- 6 課題として余暇時間等の充実を図る目的としたショート受付担当と CW とのショートプロジェクト会議の定期開催が出来なかったことがあげられる。

第 5 居宅介護支援事業所

1 安定した居宅介護支援の提供に努める

『安定した支援提供』について事業所内での情報・課題の共有を行い努力した。

上半期において担当件数が上限に達したことにより受け入れを制限し、対応として介護支援専門員の増員を 1 月～実施でき体制を整えることが出来た。

2 事務業務の合理化と管理体制の構築

事業所情報等の整理・管理においてはファイルの活用に一層力を入れ、3 人体制となったことによる役割分担を試み、効率良く活用出来つつある。

利用者情報に関しては、情報管理する人員の増、24 時間相談体制に向けた工夫の構築

に向けた取組を行っている。

3 情報発信の手段の構築

27年度において事業所の広報紙「ささやき」を3回（8月・12月・3月）発行し、利用者家族に対し、在宅支援の知識・知って得する生活の取り組み、苦情の公表等有効な伝達手段として活用が出来ている。

資料編

(平成 27 年度・平成 28 年 3 月 31 日現在)

特別養護老人ホーム 千寿の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成28年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	1	1	4	4	5	15
女性	0	2	10	23	18	53
合計	1	3	14	27	23	68
割合(%)	1.5%	4.4%	20.6%	39.7%	33.8%	100.0%

平均要介護度	4.00	(男性 3.73	女性 4.08)
平成25年度	3.94	(男性 4.00	女性 3.93)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成28年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	1	2	0	1	4	2	3	2	15
女性	1	0	1	2	13	15	12	9	53
合計	2	2	1	3	17	17	15	11	68

(平成27年3月31日現在)

	合計
男性	14
女性	54
合計	68

3 利用(入居)者平均年齢

(平成28年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	82歳9ヶ月	64歳0ヶ月	98歳
女性	87歳7ヶ月	63歳2ヶ月	103歳4ヶ月
合計	86歳7ヶ月	-	-

(平成27年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	82歳8ヶ月	60歳11ヶ月	97歳0ヶ月
女性	85歳8ヶ月	62歳2ヶ月	101歳5ヶ月
合計	84歳	-	-

4 在所期間別利用(入居)数

(平成28年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
	男性	7	4	0	0	
女性	15	14	7	7	10	53
合計	22	18	7	7	14	68

(平成27年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
	男性	6	2	1	1	
女性	21	8	9	5	11	54
合計	27	10	10	6	15	68

5 食事介助状況者数

(平成28年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	9	13.2%
一部介助者	24	35.3%
介助なし	35	51.5%

(平成27年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	17	25.0%
一部介助者	18	26.5%
介助なし	33	48.5%

6 入浴介助状況者数

(平成28年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別・中間浴	44	64.7%
一般浴	22	32.4%
個 浴	2	2.9%

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別・中間浴	45	66.2%
一般浴	20	29.4%
個 浴	3	4.4%

7 排泄介助状況者数

(平成28年3月31日現在)

区 分	人数	割合
リハビリパンツでの排泄者(ベッド上)	4	5.9%
紙パンツ又はトイレ介助者、ポータブルトイレ使用者	39	57.4%
歩行、杖等でのトイレ使用者	25	36.8%

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	4	5.9%
紙パンツ又はトイレ介助者、ポータブルトイレ使用者	46	67.6%
歩行、杖等でのトイレ使用者	18	26.5%

8 面会状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
人 数	188	284	280	219	275	209	293	262	261	239	194	180	2,884	2,678
1日平均人数	6.3	9.2	9.3	7.1	8.9	6.9	9.5	8.7	8.4	7.7	6.7	5.8	7.9	7.3

9 外出(帰省)状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
人 数	9	4	7	5	6	4	12	8	4	5	2	4	70	73
日 数	12	7	11	6	10	13	16	13	6	6	2	7	109	90

10 入居・退去状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
入居者数	3	4	2	1	2	2	1	2	1	3	3	2	26	34
退去者数	2	4	2	0	2	2	1	1	3	3	1	4	25	37
月末在籍者数	70	70	68	68	67	70	68	69	69	69	68	68	824	824

(平成27年度)

	入 居			退 去			平成26年度			
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	入居	退去		
人 数	8	18	26	8	17	25	34	37		
入居前及び退去時の状況	居 宅		17	死 亡		22	居宅	19	死亡	33
	病 院		3	他施設・長期入院		3	病院	5	他施設 長期入院	4
	施設(老健等)		6	居 宅		0	老健等	10	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
苦情受付件数	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4	12

2) 苦情の分類一覧

(平成27年度)

平成26年度

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	3
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	0
合計	3

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	10
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	1
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合計	12

12 他医療機関への受診状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成26年度
内科	2		1	2	1	1			1	1			9	19
精神科					1					1			2	0
脳外科					1								1	0
整形外科				1	3	2	3	1	1				11	12
外科		1									1		2	4
泌尿器科			2	1	1			1					5	2
眼科	1					1						1	3	4
皮膚科	1	1		1	1	3	6	5	2	1	1	1	23	45
歯科			1		2	3	3	2	3	2	4	2	22	34
耳鼻科		1			1			1					3	7
合計	4	3	4	5	11	10	12	10	7	5	6	4	81	127

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成27年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成25年度	
内科	5	泌尿器科	1	10	0
循環器科	0	整形外科	1	0	2
外科	0	精神科	0	1	0

2) 処置状況

(平成28年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	(平成27年3月31日現在)	
経口与薬	65	経管栄養	1	68	1
創傷処置	6	バルーンカテーテル挿入	0	9	0
軟膏塗布	10	浣腸、摘便	10	19	10
点眼	10			7	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼
(平成27年度)

月	回数	月	回数	平成25年度	
4月	2(2)	10月	4(12)	0(3)	4(12)
5月	6(13)	11月	4(11)	3(7)	4(11)
6月	5(11)	12月	1(10)	2(11)	1(10)
7月	0(7)	1月	3(10)	1(7)	3(10)
8月	2(19)	2月	2(8)	1(1)	2(8)
9月	1(6)	3月	4(7)	0(3)	4(7)
			32(111)	25(90)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数
(平成27年度)

月	回数	月	回数	平成26年度	
4月	2(2)	10月	3(3)	1(6)	5(2)
5月	6(7)	11月	1(1)	5(4)	3(2)
6月	0(2)	12月	2(9)	3(2)	2(2)
7月	0(4)	1月	5(10)	1(3)	4(4)
8月	5(5)	2月	3(6)	2(2)	3(6)
9月	1(3)	3月	4(5)	2(3)	4(5)
合 計			32(57)	35(36)	

14 所在状況

(平成28年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成26年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	62	23	23	61	31	31
掛川市	6	1	1	6	2	3
牧之原市	0	0	0	0	0	1
島田市	0	0	1	1	0	1
浜松市	0	0	0	0	0	1
その他	0	2	0	0	0	0
合 計	68	26	25	68	33	37

15 入居申込み(待機者)状況

(平成28年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成27年3月31日現在
菊川市	165	211
掛川市	9	11
御前崎市	2	3
静岡市	2	1
島田市	2	3
牧之原市	2	2
磐田市	2	2
県外	3	3
合 計	187	236

16 ボランティア(慰問)状況

(平成27年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
4/14~12/8	ハーモニー青葉 計5回	ハーモニカ演奏と利用者と一緒に歌う
4/9~3/9	松本静苑(書道クラブ) 計11回	書道指導
4/10~3/11	傾聴・おはなしボランティア 計23回	利用者とのコミュニケーション
4/13~2/8	カラオケボランティア(佐野他) 計11回	利用者と一緒にカラオケで歌を歌う
7月18日	学生ボランティア11名	行事(夏祭り)のお手伝い
9月12日	菊翠会	日本舞踊披露
10/17・18	3丁目・4丁目・5丁目上・柳町自治会	菊川市祭典・踊り披露
11月15日	小中学生ボランティア10名	行事(運動会)のお手伝い
12月20日	小中学生ボランティア9名	行事(クリスマス会)のお手伝い
12月20日	ベリーダンス披露 3名	行事(クリスマス会)のお手伝い

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成27年度)

団体名(代表者名)および個人名	内容	年間日数	延人数	団体名(代表者名)および個人名	内容	年間日数	延人数
民生・児童委員	清掃・傾聴	10	17				

18 事故調査状況

(平成27年度)

	<所見>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成26年度
		転倒・転落	骨折												
	創傷						1			2	1	1		5	8
	熱傷													0	0
	打撲	1		1	1	2		1	2	1	3	3	4	19	9
	表皮剥離		1	1		2	1					1	1	7	3
	その他						2	2	1		2			7	5
	外傷なし	7	1	4	8	3	9	7	9	8	2	4	1	63	57
	内出血					1	2	1		1	3			8	3
	異常なし	2	1	2	4	4	1	2	3	2	1	3	1	26	9
	外傷	3	7	4	14	14	12	13	7	5	9	12	9	109	69
	誤嚥・誤飲													0	3
	誤薬	2			1	1	1		2			1		8	7
	投薬ミス	1	1	4	1	1	1	2	4	2	1	2	2	22	16
	異食									2				2	3
	器物破損			1		1		2		2		4		10	1
	利用者同士のトラブル						1		1					2	0
	忘れ物	2			1	3	1			3	1	1	2	14	14
	その他	1				2								3	5
	合計	19	11	17	30	34	32	30	29	28	23	32	20	305	212

19 実習状況

(平成27年度)

学校名等	実習名	年間延回数	延人数	平成26年度	
東海福祉専門学校	介護福祉士単位実習	2	4	1	2
〃	希望実習	3	5	4	6
TAP	ヘルパー初任者研修	0	0	1	1
静岡市歯科衛生士専門学校	歯科臨床実習	2	2	2	2
合計		7	11	8	11

20 短期入居生活介護利用状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
利用者人数	33	34	37	39	38	38	34	35	33	36	34	33	424	503
総利用者数	178	204	232	231	232	211	200	196	211	214	209	199	2,517	2,648

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成26年度
1日平均	5.9	6.5	7.7	7.4	7.4	7.0	6.4	6.5	6.8	6.9	7.2	6.4	6.8	7.20
送迎回数	68	70	66	91	78	78	64	67	74	71	80	61	72.3	87.3

21 居宅介護支援事業所利用状況(平成28年3月31日)

1) 新規登録者(要介護度者+要支援者)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
男性	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	6	3
女性	2	1	0	1	1	0	0	0	2	2	0	3	12	13
合計	3	2	1	2	1	0	0	0	2	2	1	4	18	16

2) 要介護度契約者(介護度別1~5)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
新規実績	4	2	0	2	2	1	0	0	1	2	0	3	17	12

3) 契約終了者(死亡及び施設入所等者)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
男性	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	5	9
女性	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	6	10
合計	3	0	0	1	2	1	1	1	1	0	0	1	11	19

4) 介護度別実績契約件数

1月よりケアマネジャー3人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
要介護1	16	19	19	19	20	21	20	20	18	18	18	20	228	233
2	25	22	22	22	23	24	25	25	26	27	26	27	294	285
3	14	17	18	20	20	19	19	17	17	16	14	16	207	167
4	10	9	8	8	8	8	8	8	8	8	10	10	103	102
5	0	0	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	17	7
合計	65	67	68	70	72	74	74	72	71	71	70	75	849	794

5) 包括支援センターより介護予防委託実績件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
件数	12	11	11	9	10	8	8	8	8	9	11	11	116	111